

研究教育業績（過去5年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

1) Yang H., Huang P., Liu Y., Kumar K., Hsu L., Lu T., Chia Y., Takajo T., Anzai K., Hseu Y., Toona sinensis inhibits LPS-induced inflammation and migration in vascular smooth muscle cells via suppression of reactive oxygen species and NF- κ B signaling pathway, *Oxidative Medicine and Cellular Longevity*, Article ID 901315, 16(2014)

2. 主な学会発表

[国際学会]

1) Nuruki Y., Yokoi A., Takajo T., Anzai K., Evaluation method for antioxidant activity of various compounds using an azo-compound-induced hemolysis of erythrocytes, 7th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia(SFRR-Asia 2015), November, Chiang Mai(2015)

[国内学会]

- 1) 高城徳子, 丸山貴史, 栗原義暢, 土田和徳, 安西和紀, 一重項酸素消去活性測定法の検討 - ESR を用いた簡易的測定方法 -, 日本薬学会第 138 年会, 金沢, 3 月(2018)
- 2) 安西和紀, 小清水里子, 篠田航, 上野健太, 福田詩織, 垣内香奈, 高城徳子, 土田和徳, 大気圧低温プラズマによる活性酸素種生成とリポソーム膜の過酸化, 日本薬学会第 138 年会, 金沢, 3 月(2018)
- 3) 高城徳子, 栗原義暢, 丸山貴史, 土田和徳, 安西和紀, 一重項酸素消去活性を測定するための基礎的検討, 第 56 回電子スピンスイエンセンス学会年会(SEST2017), 東京, 11 月(2017)
- 4) 高城徳子, 栗原義暢, 丸山貴史, 土田和徳, 安西和紀, ESR を用いた一重項酸素消去活性系の確立, 第 70 回日本酸化ストレス学会学術集会, つくば, 6 月(2017)
- 5) 竹安結花子, 高城徳子, 土田和徳, 安西和紀, 鉄を含むいくつかの酸化剤による EggPC リポソームの脂質過酸化の比較, 第 70 回日本酸化ストレス学会学術集会, つくば, 6 月(2017)
- 6) 土田和徳, 青木珠美, 小清水里子, 高屋鈴奈, 高城徳子, 安西和紀, 水への大気圧低温プラズマ照射による活性酸素種生成に関する基礎的検討, 第 70 回日本酸化ストレス学会学術集会, つくば, 6 月(2017)
- 7) 竹安結花子, 高城徳子, 土田和徳, 安西和紀, リポソーム膜の脂質過酸化における Fe²⁺を含むいくつかの酸化剤の作用機構の違い, 日本薬学会第 137 年会, 3 月, 仙台 (2017)
- 8) 高城徳子, 岩瀬弘大, 栗原義暢, 土田和徳, 安西和紀, ESR を用いた一重項酸素測定法の検討, 日本薬学会第 137 年会, 3 月, 仙台 (2017)
- 9) 土田和徳, 青木珠美, 小清水里子, 高屋鈴奈, 高城徳子, 安西和紀, 水への大気圧低温プラズマ照射による活性酸素種生成に関する基礎的検討, 日本薬学会第 137 年会, 3 月, 仙台 (2017)
- 10) 安西和紀, 塗木勇介, 横井杏沙, 高城徳子, 赤血球の溶血を指標とした抗酸化能評価, 第 68 回日本お参加ストレス学会学術集会, 6 月, 鹿児島 (2015)
- 11) 阿部真也, 福岡隆元, 田口貴将, 高城徳子, 土田和徳, 窪田洋子, 安西和紀, フェントン反応によるヒドロキシルラジカル発生系における鉄イオンの影響, 日本薬学会第 135 年会, 3 月 (2015) 神戸

- 12) 高城徳子、三宅大輔、土田和徳、窪田洋子、安西和紀、TEMPD(2,2,6,6-tetramethyl-4-piperidone)を用いた一重項酸素の測定, 日本薬学会第 135 年会, 3 月 (2015) 神戸
- 13) 高城徳子、塗木勇介、横井杏沙、安西和紀: 赤血球の溶血を指標としたビタミン E 関連化合物の抗酸化能評価, 第 26 回ビタミン E 研究会, 1 月 (2015)、東京
- 14) 高城徳子、田口貴将、福岡隆元、楊新玲、張淑貞、土田和徳、窪田洋子、安西和紀: 抗酸化評価のためのスピントラップ法における Fenton 反応の検討. 第 52 回電子スピンサイエンス学会年会 (SEST2013)、10 月 (2013) さいたま

3. その他特筆すべき研究業績

II. 教育業績

1. 担当授業科目

- 2017 年度 物質と構造 (薬学科 1 年)
薬学特論 I (薬学科 1 年) 1 コマ
数学・統計学の基礎 (医療ビジネス薬科学科)
- 2016 年度 物質と構造 (薬学科 1 年)
薬学特論 I (薬学科 1 年) 1 コマ
物理・分析化学実習 (薬学科 2 年)
薬学総合演習 I・II
- 2015 年度 物質と構造 (薬学科 1 年)
化学・物理系実習 II (薬学科 2 年)
医療系実習 (薬学科 3 年)
薬学総合演習 I・II
- 2014 年度 理論化学 I (薬学科 1 年)
理論化学 II (薬学科 2 年) 4 コマ
物理・分析化学実習 II (薬学科 2 年)
医療系実習 (薬学科 3 年)
薬学総合演習 I・II
- 2013 年度 理論化学 I (薬学科 1 年)
理論化学 II (薬学科 2 年) 4 コマ
物理・分析化学実習 II (薬学科 2 年)
薬剤系実習 (薬学科 4 年)
薬学総合演習 I・II

2. その他特筆すべき教育業績